

「学ぶ力」	
実態	成果
実態	<p>◇児童アンケートから、学習していて「おもしろい」「楽しい」と思っている児童が多い。さらに学習に意欲的に取り組む児童が多いという実態がある。主に生活・総合において、子どもが興味・関心をもつことができるような導入、子どもの思いに沿った展開になるよう工夫してきた結果だと考えられる。</p> <p>◇授業の中で適宜学びを振り返る場を設定したことにより、自己の伸びを実感したり、振り返った内容を次に生かそうとしたりする児童が増えていることが、アンケートから明らかになった。</p>
	<p>◇児童アンケートから、「自分で疑問やめあてをもって学習している」「最後まで、あきらめずに学習している」児童が少ないという実態がある。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫することに課題があることが明らかになった。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇札幌市の共通指標の「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」等の相互承認に関連する項目において、全校の約95%の児童が肯定的な回答をしている。ただし他の項目に比べると、「自分が必要とされていると感じる」割合は低い傾向にある。</p> <p>◇たてわり活動による異学年交流を毎月実施していること、運動会や学習発表会等の行事後や日々の授業での相互評価の場を定期的に設定していることが、自己肯定感の高まりに関係していると考えられる。引き続き、自分に自信をもつことができるような場の設定や価値付けをしていくことが重要である。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
自己の学びを調整し、他者と共に高め合う力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>(1) 研究主題「自己の学びを調整し、他者と共に高め合う子の育成」に基づき、教職員が互いの授業を参観し、授業について討議する機会を設定する。</p> <p>(2) 学校全体で生活・総合の授業研究を行い、他教科と関連させながら、自分たちで問いを見付けていく経験を積み重ねる。</p> <p>(3) 子どもが問いをもち、思考を続けていくことができるような、余白のある単元構成を考える。</p> <p>(4) 子どもが自ら工夫をしたり、様々なことに挑戦したりすることができるような単元構成や手だてを考え、実践する。</p>
取組	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>① 生活・総合の授業の充実 →子どもたちの思いや疑問に寄り添い、「やってみよう」が実現するような授業づくりを行う。</p> <p>② よりよい学校にするための委員会活動の充実 →各委員会や委員長会議で学校の様々な課題を議題にした話し合いを行い、子どもたちの思いを反映した活動ができるようにする。</p> <p>③ 自分たちの生活を振り返る場の設定 →校内の「5つの重点」の振り返りを毎月行う。 →キャリアパスポートに保管し、自分の成長が見えるようにする。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
	<p>◇主に(2)や①について、自分の考えや思いを表現したり、子どもたち自身が自分の行動を振り返ったりするのに効果的なツールを使うことができる環境を整備し、各ツールの利点などの特色について適宜指導の機会を設ける。</p> <p>◇主に②について、アンケートフォームで得られた意見を調査・分析するなど、一人一人の意見が反映されるシステムを生かすことや、パートナー校との連携のために、オンラインミーティングの機会を設定し、各学校の活動を共有したり子ども同士の声をつないだりできるようにする。</p>